

平成30年度 徳島県立池田高等学校（全日制） 学校評価 総括評価表

No. 1

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
1 学ぶ意欲と自主的に学習する習慣を育て「確かな学力」を身につけた社会で自立できる人間を育成する。	① 家庭学習時間の確保と学習の習慣化	1 家庭学習時間調査週間を設け、一週間を通して生徒の学習時間を把握し、家庭学習時間が確保できるよう指導に努める。	全生徒の平均家庭学習時間 2時間以上	全生徒の平均家庭学習時間は2.3時間(前年度2.2時間)であった。1・2年生平均は2.0時間(同2.0時間)、3年生平均は2.8時間(同2.7時間)であった。本年度も家庭学習時間調査週間を年8回(3年生は年5回)設定した。調査結果を個別面談等に活用し、生徒が家庭学習にしっかり取り組めるよう指導した。	A	B	B	新入試制度の開始に向けて、今以上に英語検定試験が重要になってくる。英検の受験を奨励するだけでなくTOEICなどの外部試験の受験機会を与えて欲しい。大学ではTOEICの得点も重要になってくるので、受験費用の問題などで学校での実施が難しい場合もあると思うがどこで受験できるかなどの情報提供だけでも学校で行って欲しい。そうすることで生徒が英語検定を前向きに受験できるよう指導して欲しい。	生徒の学習状況を把握するための資料で終わらない工夫をする。面談に資料を活用することで、生徒の生活習慣や学習習慣の改善を図り、家庭学習の時間を確保させる。また、学習面の悩みやつまづきの原因を探り、学習意欲を喚起する動機づけや手だてが講じられるようにする。
		2 予習・復習のための週末課題を提供し、自主的・計画的に学習させ、家庭学習の習慣化を図る。	生徒アンケート「週末課題が学習に役に立った」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は70.2%(前年度72.1%)であった。校内実力テストや校外模試の範囲に合わせた課題を提供した。	C				
	② 基礎基本の徹底と学習意欲の喚起	1 各教科において確認テスト・小テストを行うとともに、授業理解を促進させるワークシート等を開発・提供する。	生徒アンケート「確認テスト・小テスト・ワークシートが役に立った」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は87.5%(前年度86%)であった。テストは合格点を決め、それに達するまで再テストを繰り返した。	A	B	(所見)	基礎基本の徹底や学習指導方法の改善が図られているが、週末課題の生徒評価が伸び悩んでいる。目的の明確化と、意識付けを徹底したい。各種検定試験の受験奨励は、受験料の負担が大きいことが原因で横ばいの受験率となっている。また、課題研究などを通して地域と連携した教育や図書館の有効活用が推進されている。家庭学習の習慣化については、今後も改善を続けていく必要がある。	確認テスト・小テスト、ワークシートを活用した授業実践により、全教科・科目で確かな学力をつける必要がある。
		2 生徒の興味・関心を高める教材の開発とともに、探究的学習や課題解決的な学習活動の展開を図り、生徒の学習意欲喚起に繋げる。	生徒アンケート「進路実現に向けて学習意欲が高まった」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は81%(前年度84%)であった。授業公開週間や各種研究授業等の取組を通して、アクティブラーニングの研修や、電子黒板等情報機器を活用した授業開発に取り組んだ。	B				
	③ 学習と部活動の両立への支援	1 部活動生徒理解懇談会を開催し、生徒の学習習慣や成績向上について教職員の共通理解を図る。	部活動生徒理解懇談会の開催回数 年1回	部活動生徒理解懇談会の開催回数は年1回(前年度年1回)であった。生徒指導課主催の生徒理解懇談会と重ねて実施した。	B	B	B	学習と部活動の両立をさらに支援するため、担任・部活動顧問を中心に教職員全体で生徒に対する共通理解を深める。	教科書の内容に関連した新聞記事を提供する等の工夫により、生徒の興味・関心を高め、学習意欲を喚起する方策をさらに検討する。
		2 定期考査前に部活動の練習時間短縮や勉強会を行い、学習時間を確保して学習習慣の定着を図る。	生徒・部活動顧問アンケート「定期考査前に生徒の学習時間が確保できた」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒75%(前年度75%)、部活動顧問85%(同92%)であった。定期考査1週間前から練習時間の短縮や勉強会を行った。	B				
	④ 各種検定試験の受験奨励と対策	1 英語検定・漢字検定などの各種検定の受験を奨励し、学力の向上を図る。	英語検定・漢字検定などの各種検定の受験率 前年度比3%以上増	英検受験率は前年度比で横ばい、漢検受験率は前年度比1.2%減であった。日程が部活動の公式戦と重なったり、受験料の負担が大きいことがネックとなった。	B	B	B	できるだけ多くの生徒に受験を勧め、資格取得とともに学力向上の契機となるよう努める。	プレテスト・再テストなどの実施を継続し、資格としての漢字検定を意識するように指導する。
		2 漢字テストの予習・復習プリントを提供し、漢字テスト優秀者の割合を増加させる。	全10回の漢字テストのうち、合計90点以上の生徒の割合20%以上	合計90点以上の生徒の割合は58.2%(前年度21.3%)であった。漢字優秀賞9名。計画的に予習・復習プリントを提供して活用させた。	A				
	⑤ 教員の授業力向上と学習指導方法の改善	1 年2回の授業公開週間や研究授業の授業参観を通して、教員の授業力向上を図る。	教員アンケート「授業力向上に授業公開や研究授業を役立てることができた」80%以上	教員アンケートの肯定的評価は85%(前年度92%)であった。授業公開週間を前年度と同様に1・2学期に各1回2週間ずつ設定した。	A	A	A	教員の授業力向上をさらに図るために授業参観は有効であるので、授業参観しやすい環境作り引き続き努める。	学習指導方法の改善をさらに図るため、まず各教科・各学年で指導方法についての意見交換を増やすように引き続き努める。
		2 各教科で教科会を定期的に開催するなどして、学習指導方法の改善について検討する。	教員アンケート「学習指導方法の改善を実践することができた」80%以上	教員アンケートの肯定的評価は95%(前年度90%)であった。定期考査・校内実力テスト前後を中心に、各教科・各学年で指導方法について意見交換を行った。	A				
	⑥ 地域と連携した教育の推進	1 地域の専門家を招き、地域をテーマとした課題研究を通して、地域の人材活用を図る。	地域を課題とした課題研究の実施テーマ数 5つ以上	実施テーマ数は年間11テーマ(前年度10テーマ)であった。本年度は地域の方々の協力を得て、「地域の伝承に文化に学ぶ」コンテスト学校活動部門優秀賞を受賞することができた。	A	A	A	生徒がよりよい研究活動を行えるよう、地域の人材活用をさらに活発にし、より地域に根付いた課題研究を実施する。	発表の形式を検討し、内容が分かりやすい成果発表会を実施する。
		2 課題研究集録を発行するとともに、ホームページで研究内容を公表することを通して、地域に開かれた学校づくりを推進する。	課題研究集録の発行 年間1冊 ホームページ上に研究内容を公表1グループ	地域の方への成果発表会は年1回(前年度年1回)であった。本年度も課題研究報告書を発行することができた。	B				
	⑦ 図書館の有効活用と読書活動の推進	1 館外展示や読書会を通して、多くの生徒に池高図書館と読書の魅力を伝え、図書館利用の習慣がない生徒が来館するきっかけを作る。	館外展示 年1回以上 読書会 年1回以上	図書館の展示は、全11回。その内館外展示は年3回。図書委員による展示も年4回実施した。後4回実施予定。読書会は、6/15クラスで実施。出張図書館の実施。	A	A	A	本年度テーマ展示に取り組んだ流れを活かし、ディスプレイ・広報など展示にまつわる活動に図書委員がさらに深く参加する機会を作るように努める。	図書委員と相談しながら、生徒の興味・関心を喚起する新たなコーナー作りに取り組む。
		2 池高入門にてブックトークを中学生に行うことで、池高図書館と読書への興味・関心を喚起し、入学後の活発な図書館利用へと繋げる。	池高入門におけるブックトーク 年1回	池高入門でブックトークを実施。東雲祭では、ビブリオバトルを開催。県大会へも2名が参加。パブリック・ビューイングを行った。	A				

【備考】 「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった